

8. 宮古地方の乳幼児の習癖と不正咬合の3年間の推移について

○宮川 耀子（平良市・宮古保健所）

伊藤 学而（鹿大・歯・矯正）

井上 昌一（鹿大・歯・予防）

小椋 正（鹿大・歯・小児）

井上 直彦（東大分院・口外）

沖縄県先島地方の乳幼児健診は、東大の平山宗宏教授を団長として、昭和49年から毎年1回7月末から8月始めに行われている。しかしながら、歯科検診の開始はやゝ遅く、昭和57年度からであった。

先島地方の中の宮古島は、沖縄本島からさらに南へ約300kmにある三角形の島である。今回我々の発表する宮古地方とは、宮古保健所管内の1市3町2村で、宮古島の他に伊良部島と多良間島を含めた地方である。

検診対象は、昭和57年度、昭和58年度及び昭和59年度の各地区の0才児、1.6才児、3才児である。

検診方法は、水平位診療姿勢で、ミラー探針による一般的な方法に従った。診査項目はウ蝕の他歯のよごれ・歯周疾患・不正咬合とその要因などである。

今回我々が報告するのは、宮古地方の習癖のある小児の不正咬合との関係を、昭和57年度からの3年間の推移を調査したので報告する。